

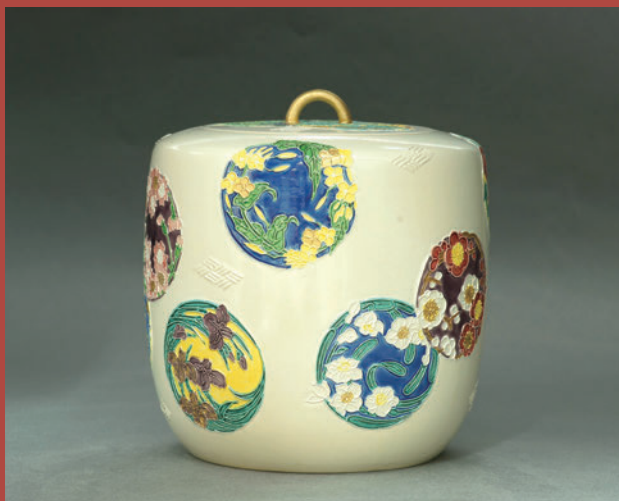
# ART INFORMATION

「美」との出会いを提供して1世紀。暮らしに「アート」をお届けします。

## 横浜高島屋美術画廊のご案内

# 12月

## December 2025



吉向十三軒「交址花丸水指」

●会期:12月3日(水)～8日(月)

喜寿記念 今日庵出入方

## 八代 吉向 十三軒・翔平 父子茶陶展

◎美術画廊は毎週火曜、会場準備のため閉廊、最終日は通常通り営業いたします。

※都合により営業時間・催し内容が変更になる場合がございます。また、商品の販売中止・販売期間が変更になる場合がございます。

### 高島屋の美術

高島屋各店美術画廊・  
展覧会のご案内



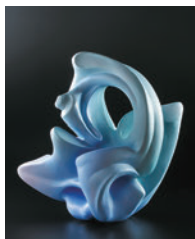
横浜高島屋美術画廊のご案内は  
【公式】横浜高島屋美術画廊  
のInstagramでも  
ご覧いただけます。



●会期:12月17日(水)～22日(月)

## Unknown World

— 見慣れた光景とその向こう側 — 〈絵画・立体〉



重松あゆみ

「Sky Resonance」W54.0  
×D39.2×H55.6cm 陶

様々な素材を通し独自の造形言語を確立した9名の美術家によるグループ展を開催いたします。それぞれの美術家たちが、造形言語によって何を捉え、素材を基にいかにして表現世界へと組み立て直したのか。生みだされた造形そのものがもつ力、表現の味わいを、この機会にぜひご高覧ください。

【出品作家】(五十音順・敬称略)

秋山 陽(陶造形)・上田 泰江(油画)・岸本 吉弘(油画)・  
木戸 修(彫刻)・草間 喆雄(ファイバー)・小島 徳朗(日本画)・  
児玉 靖枝(油画)・重松あゆみ(陶造形)・西野 康造(彫刻)

【テキスト】(敬称略)

深谷訓子(京都市立芸術大学 総合芸術学科准教授)

美術工芸サロン

— 自然釉・薪窯のメッセージ —

## 近藤 裕久 作陶展

1993年岐阜県立多治見工業高等学校窯業科卒業後、2002年父・近藤精宏氏(小山富士夫内弟子)に師事。美濃の土を掘った粘土に、近くで採取した草木を焼いた釉薬を施し薪窯焼成した自然を強く感じられるうつわを発表いたします。



「灰釉鉄紋壺」35×H37cm

●会期:12月24日(水)～1月5日(月) ※1月1日(木・祝)・2日(金)は休業とさせていただきます。

## 頌春展〈総合〉

初冬から新春・梅春までのシーズンを捉え、「季節の花々」「歳時記」「冬～初春」といったテーマを基に、日本画・洋画・工芸の現存作家の逸品を展覧いたします。

●会期:12月24日(水)～1月12日(月・祝) ※1月1日(木・祝)・2日(金)は休業とさせていただきます。

美術工芸サロン

## 茶道具 初春の会

初春を寿ぐ、干支やお勸題に因んだお道具、初釜でお使いになるお道具のほか、日頃のご愛顧に感謝いたしまして、特別提供品もご用意いたします。春に向けたお道具をこの機会にぜひご覧ください。

## 2026年1月の予告

●会期:12月24日(水)～1月5日(月) ※1月1日(木・祝)・2日(金)は休業とさせていただきます。

頌春展〈絵画・工芸〉／茶道具初春の会

●会期:1月7日(水)～12日(月・祝) —————

金丸 悠児 展〈絵画〉／広沢 葉子 展〈硝子〉／茶道具初春の会

●会期:1月14日(水)～19日(月) —————

人間国宝 鈴木 藏 展〈陶芸〉

●会期:1月21日(水)～26日(月) —————

加来 万周 展〈日本画〉／森 泰司・森 敏彰 二人展〈陶芸〉

●会期:12月3日(水)～8日(月)

喜寿記念 今日庵出入方

## 八代 吉向 十三軒・翔平 父子茶陶展

吉向焼は200余年の歴史があり、六代目より裏千家御出入方を許され茶陶を専門とし、当代八代吉向十三軒先生が家伝を受け継いでいらっしゃいます。喜寿記念となる今展はご子息の翔平先生の作品を加えた父子展となります。交趾や錦絵、三島手作品のほか、伊賀丸柱で制作される灰被の作品など、一堂に展観いたします。



吉向十三軒「交趾寒梅竹水指」



吉向翔平「赤砂釉茶碗」

## 久保 尚子 展 — 花景百譚 — 〈洋画〉



「芍華」97.0×130.3cm(60号M)キャンバス・油彩

単純化されたフォルム、極限まで情報を排除したモノトーンによる陰影を際立たせた前回から、滲み出る光や色彩、そして確固たる形態をより強く意識された今展。日々の中で見出される花達や景色の連なりを、人の姿、他者との関係性にたとえた新作を一堂に展観します。

● 会期：12月10日（水）～15日（月）

# フジイフランソワ展

— ムスビの庭 — 〈日本画〉



「咲いたなら」90×120cm、鉛筆・墨・膠・胡粉・水彩絵具・アクリル絵具・和紙

古典絵画を引用し、現代の素材を用いた表現で、1999年に98年度準朝日広告賞、2000年VOCA展にて奨励賞を受賞されるなど多くの賞を受賞。横浜高島屋初個展となる今展では、「ムスビの庭」と題し、「ムス(産)=生じる」「ヒ(霊)=たましいの神秘」それらのご縁としての「結び」を合わせた表現で20余点を発表。自然や人間、動植物との繋がり、太古から現代への連なりを古典絵画や古事記を引用し、自然・人間・神話の関わりをユーモアを交えた独自の表現で20余点にて展覧いたします。

## 市岡 真治・留守 玲 展 〈金工〉



左：留守玲「SPC Planet」(鉄)34×13×7.5cm、右：市岡真治「魚々子金輪寺」(真鍮)7.2×H 8.4cm

市岡真治先生は1976年広島県生まれ。多摩美術大学大学院修了。熱した板状の金属を金槌で叩き薬罐、茶器、酒器、花入などを制作されています。留守玲先生は1976年宮城県仙台市生まれ。多摩美術大学大学院修了。溶接・溶断を用いた独自の手法で、鉄の質感や表情を流動な芸術として昇華させています。金工と金属造形の新たな世界観をご高覧ください。